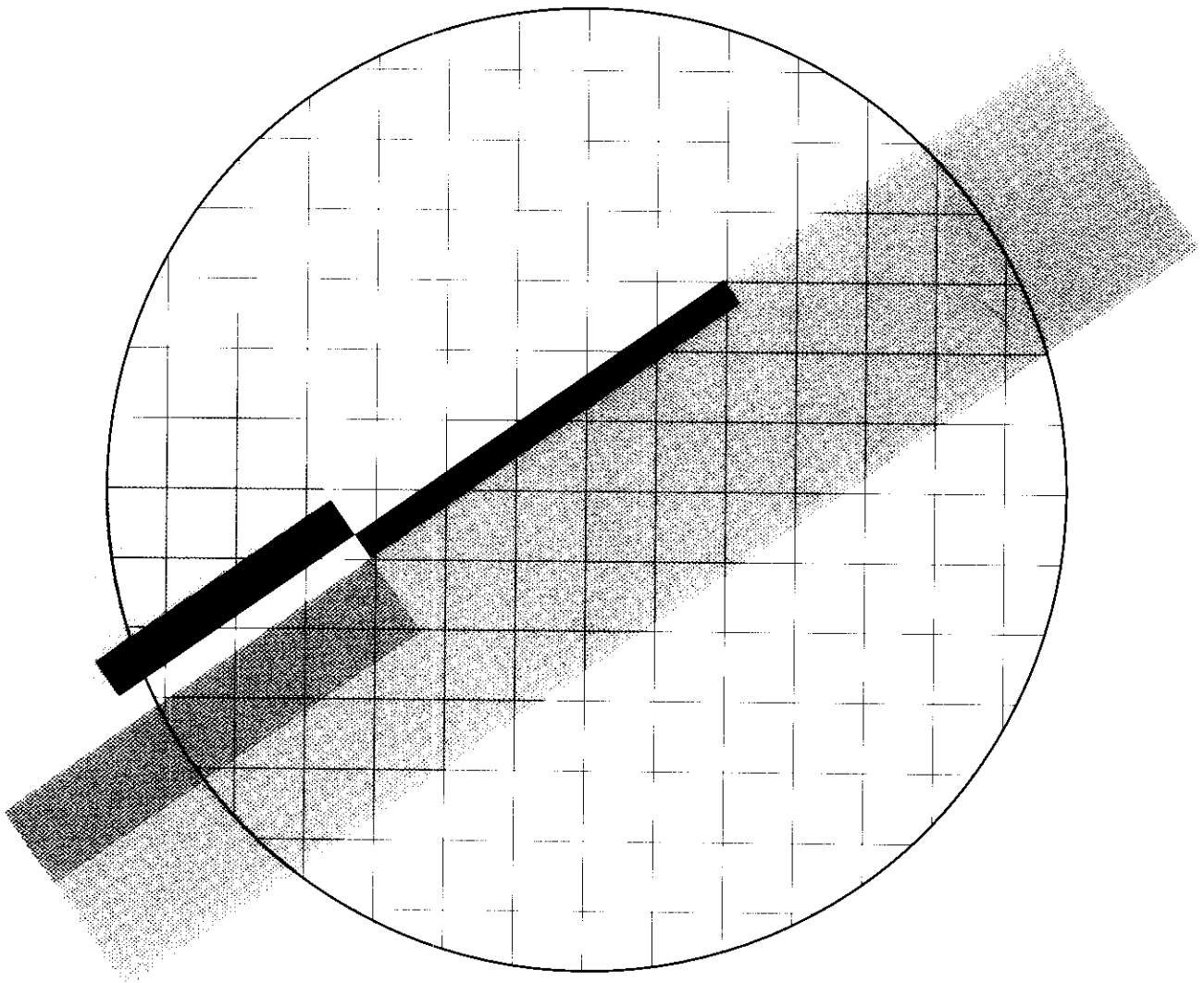


平成13年度総括研究報告書

平成13年度厚生労働省科学研究費補助金政策科学推進研究事業
少子化の要因と地域分析に関する調査研究

報告書



平成14年 3 月

主任研究者 佐藤 秀紀

目次

まえがき

I. 総括研究報告

1. 少子化の要因と地域分析に関する調査研究 ----- 1
S市における報告
2. 少子化の要因と地域分析に関する調査研究 ----- 27
O市における報告
3. 少子化の要因と地域分析 ----- 53
主任研究者 佐藤秀紀 青森県立保健大学

II. 分担研究報告

1. 子育て支援施設の整備およびサービス状況における地域特性の分析 ----- 67
分担研究者 鈴木幸雄 北海道医療大学
2. 都市の社会経済類型と保育所入所待機率および女性の就業状況との関係 -- 83
分担研究者 佐藤秀一 青森県立保健大学

III まとめ ----- 99

IV 資料

1. 調査研究実施要綱 ----- 101
2. 調査票 ----- 103

まえがき

わが国の合計特殊出生率は、伝統的多産体制から近代的少産体制への出生力転換を終えた後、1970年半ばに置換水準を割って以来、今日まで新たな低下局面に入っている。一時的であれ反転の兆しをみせ、84年にはなお、1.81を維持していたものの、89年以降は人口動態統計史上の最低記録の1.57と低下した後、95年には1.42と、人口を維持するのに必要な水準である2.08を大幅に割り込んでいる。この出生水準は先進国中、イタリア、スペイン、ドイツについて低いものとなっている。

少子化のもたらす問題は、子ども自身への影響にとどまらず、将来の労働人口の減少や年金などの社会保障費用に係わる現役世代の負担の増大、経済成長率の低下、若年労働力の減少による社会の活力そのものの減退等の影響が懸念されている。そのため、一連の少子化関連対策が打ち出されている。しかしこの活発な政策的動きにもかかわらず、出生率は低下し続けている。この少子化現象を少しでもくい止めることが、わが国の政策上緊急かつ重要な課題となっている。

ところが、都道府県レベルにおいては、合計特殊出生率の最も高い沖縄県（1.81）と、最も低い東京都（1.05）との間においては大きな開きが生じている。同一都道府県内においても出生率の差は一様でなく、北海道内においても合計特殊出生率の最も高いT市（1.73）と、合計特殊出生率の最も低いS市（1.18）では、出生率において大きな差異が生じている。このように地域によってその出生率に大きな差異が認められており、このような地域間の大きな違いをもたらす要因については必ずしも十分に検討されているとは言えない状況にある。したがって、乳幼児を持つ母親の子育て意識・困難との関連で総合的に検討したものは極めて乏しく、地域特性を踏まえながら、その地域間の格差に注目した分析はほとんど認められない。地域の視点から少子化をどのように考えるのかといったことが今後の大きな課題となっている。

本研究は、今後の子育て支援の方策に対する指針を得ることをねらいとして、北海道内に在住し、乳幼児を持つ母親を対象にして、1）少子化現象と母親自身の子育ての意識や育児困難の関連性を検討すること、2）少子化現象と地域間格差について検討することを目的とした。今年度は2）少子化現象と地域間格差について検討を試みた。

今回実施した調査においては、3つの検討課題について整理した。

1）これからの地域政策を考える新たな手がかりを見いだすことをねらいとして、北海道内に在住し、保育園に通園している子どもの母親を対象にして、少子化現象と地域間格差について検討することを目的とした。その結果、『出生率』の地域格差の成因として、人口構造的、産業・経済構造的要因などの社会経済的要因の相違、家族構成の相違、住宅事情の相違、母親の晩婚化、地域社会の血縁的・地縁的絆の相違、子育てに関する意識の違いなどが、女性の出産行動に対して影響を及ぼしているものと示唆された。少子化が地域格差を伴いながら進行していることから、今後は地域社会における子育て支援に関する地域の実情に応じた取り組みが一層重要なものとなると考える。

2）全国 656都市を対象に、その人口統計、住宅状況、経済状況による特性分類を行い、次いで類型化された都市の地域特性分類群と、子育て支援施設の整備およびサービス状況

との関連性について検討した。その結果、656都市の機能特性として、「地域活性規模特性」「都市化度特性」「産業特性」「成長特性」の4つの因子が抽出された。これら4因子からみた地域特性の特徴を検討したところ、656都市の地域特性分類群には11群が認められ、各群の特徴から、「地方小規模都市」、「地方高成長都市」、「大商圏形成都市」、「大都市圏準衛星都市」、「地方中核都市」、「大都市圏衛星都市」、「非成長都市」、「平均的地方都市」、「成長型地方工業都市」、「観光産業型地方都市」、「地方工業都市」に分類された。また、これら11群と子育て支援施設の整備およびサービス状況との関連性を検討したところ、保育所充足率、入所待機率（0～2歳児）、延長保育実施施設比率と群間に有意な違いが認められ、一時保育実施施設比率と群間には有意な違いが認められなかった。これらのことから、都市の地域特性の相違によって、子育て支援施設の整備およびサービス状況の格差が生じていることが明らかになった。

3) 全国694都市ごとの低年齢児（0～2歳）の保育所入所待機率および25～39歳の女性の就業率の特徴と社会経済的要因との関連性について検討した。その結果、0～2歳児の保育所入所待機率と25～39歳女性の就業率が共に全国平均を上回っている「高入所待機率・高女性就業率都市群」（75都市）、25～39歳女性の就業率は全国値を下回っているが0～2歳児の保育所入所待機率は全国平均を上回っている「高入所待機率・低女性就業率都市群」（95都市）、0～2歳児の保育所入所待機率と25～39歳女性の就業率が共に全国平均を下回っている「低入所待機率・低女性就業率都市群」（193都市）、25～39歳女性の就業率は全国値を上回っているが0～2歳児の保育所入所待機率は全国平均を下回っている「低入所待機率・高女性就業率都市群」（331都市）に分類された。このように、都市の地域特性の相違によって、女性の就業状況と保育所の整備状況の格差が生じていることが明らかになった。大都市を中心に保育所の新設をふくむ、本格的な保育所整備計画を国が策定し、不動産の高い都市部での建設費の国庫補助や保育所運営費の増額など、急場しのぎでない財政的措置をとることが必要であると考えられる。

平成13年3月31日

調査研究委員会委員長 佐藤 秀紀

調査研究組織

少子化の要因と地域分析に関する調査研究委員会

委員長 佐藤秀紀（青森県立保健大学健康科学部教授）
副委員長 鈴木幸雄（北海道医療大学看護福祉学部助教授）
委員 佐藤秀一（青森県立保健大学健康科学部講師）

（１）調査内容検討専門委員会

委員長 鈴木幸雄（北海道医療大学看護福祉学部助教授）
委員 佐藤秀一（青森県立保健大学健康科学部講師）

（２）分析専門委員会

委員長 佐藤秀一（青森県立保健大学健康科学部講師）
委員 鈴木幸雄（北海道医療大学看護福祉学部助教授）

I 総括研究報告

総括研究報告

I. 少子化の要因と地域分析に関する調査研究（S市における報告）

【調査対象地域・調査対象の選定方法等】

本調査研究の目的および調査方法を明確にするために、少子化の要因と地域分析に関する調査研究実施要綱（以下、「実施要綱」という）（資料1）を少子化の要因と地域分析に関する調査委員会（以下、「調査委員会」）が定めた。

この実施要綱にしたがって、調査委員会およびその中に設けられた調査内容検討専門委員会において作成した「少子化の要因と地域分析に関するアンケート」（資料2）を用いて調査研究を実施した。

調査の対象は、北海道内において、合計特殊出生率の低い地域のS市（合計特殊出生率：1.18）を選定し、その地域の保育園および幼稚園に通園している子どもの母親800名とした。

【研究方法】

調査方法は、調査票を作成し、各保育所および幼稚園の担当者を通じ、本人への配布・回収を行った。

調査内容は、1）家庭と住まいの状況、2）母親自身の状況、3）夫の家事・育児の参加状況、4）子育てについての考え方とした。

家庭と住まいの状況に関しては、現在の子ども数、将来の予定する子ども数、理想として育てたい子ども数、育てたい子ども数と実際の子ども数の違いの理由、家族形態、母親の実家との距離、父親の実家との距離、住居のタイプ、居住年数等とした。

母親自身の状況に関しては、母親の年齢、母親の教育歴、母親の結婚時の年齢、母親育児体験、母親の就労の有無、母親の職歴、母親の社会的活動、母親の平日に使用している自由時間、母親の自由時間の活動、母親の交友関係、専業主婦に対する仕事に関する要望、母親の雇用形態、母親の職業、母親の出勤時間、母親の帰宅時間、母親の収入（月平均）、母親の仕事についての悩みや不満、母親の就労観、母親の就労継続の意思等とした。

夫の家事・育児の参加状況に関しては、家事・育児への参加状況、夫に対する評価、父親の年齢、父親の雇用形態、父親の職業、出勤時間、帰宅時間、夫婦での共同行動、家族での共同行動、父親の収入等とした。

子育てについての考え方に関しては、子育てする上での支え、子育てする上での困難、子育てする上での相談相手、本人の問題に対しての相談相手、育児サービスの要望、子育てする上でのサポート状況、自分にとっての子どもの存在、子育てに関する意見に対して等を調査項目とした。

解析に当たり、まずすべての調査項目に対し記述統計で検討した。さらに、1）少子化現象と母親自身の子育ての意識や育児困難の関連性を検討すること、2）少子化現象と地域間格差について検討した。

なお、調査対象者800名のうち、回収ができた688名（回収率86.0%）の資料を分析した。上記の通り実施要綱に従い調査を実施したが、その実施は平成12年10月上旬から下旬までの3週間の間に行い、対象者から調査票が回収された。

回収された調査票は「分析専門委員会」において集計と解析を行い、最終的に本委員会が本報告書を作成した。なお、集計ならびに解析は青森県立保健大学健康科学部のSPSSを用いた。

【研究結果】

1. 基本属性等の調査項目の分布

家庭と住まいの状況については、子どもの数（N=688）が、平均1.97人、標準偏差 0.86であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、子どもの数（N=348）が、平均1.72人、標準偏差0.79であった。

第1子の有無について（N=688）は、「有り」が688名（100.0%）、「無し」が0名（0.0%）であった。第2子の有無（N=688）は、「有り」487名（70.8%）、「無し」201名（29.2%）であった。第3子の有無（N=487）は、「有り」162名（23.5%）、「無し」325名（76.5%）であった。第4子の有無（N=162）は、「有り」27名（3.9%）、「無し」135名（96.1%）であった。第5子の有無（N=27）は、「有り」8名（1.2%）、「無し」19名（98.8%）であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、第1子の有無について（N=346）は、「有り」が346名（100.0%）、「無し」が0名（0.0%）であった。第2子の有無（N=346）は、「有り」189名（54.6%）、「無し」157名（45.4%）であった。第3子の有無（N=189）は、「有り」55名（15.9%）、「無し」134名（84.1%）であった。第4子の有無（N=55）は、「有り」8名（2.3%）、「無し」47名（97.7%）であった。第5子の有無（N=8）は、「有り」1名（0.0%）、「無し」7名（99.9%）であった。

第1子の平均年齢について（N=688）は、平均が6.43歳、標準偏差が3.46であった。第2子の平均年齢（N=487）は、平均4.61歳、標準偏差3.21であった。第3子の平均年齢（N=162）は、平均3.70歳、標準偏差2.95であった。第4子の平均年齢（N=27）は、平均4.26歳、標準偏差2.90であった。第5子の平均年齢（N=8）は、平均3.00歳、標準偏差3.43であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、第1子の平均年齢について（N=346）は、平均が5.74歳、標準偏差が3.69であった。第2子の平均年齢（N=189）は、平均4.51歳、標準偏差3.70であった。第3子の平均年齢（N=55）は、平均3.87歳、標準偏差2.75であった。第4子の平均年齢（N=8）は、平均3.38歳、標準偏差1.73であった。第5子の平均年齢（N=1）は、平均1.00歳、標準偏差0.00であった。

育てたい子ども数と実際の子どもの数の違いの理由（N=323）は、その肯定率に着目すると、「子どもを育てるのにお金がかかる」が214名（66.3%）、「子どもを育てることが体力的につらい」が157名（48.6%）、「仕事との両立がむずかしい」が119名（36.8%）、「今の世の中や将来に対して不安である」が109名（33.7%）、「夫の協力・理解が少ない」が70名（21.7%）、「家が狭い」が65名（20.1%）、「親の協力・理解が少ない」が27名（8.4%）、「子どもがなかなか産まれない」が21名（6.5%）、「子どもを育てることが精神的負担である」が21名（6.5%）、「子どもを産み育てることが困難とはなっ

いない」が4名（1.2%）の順となっていた。なお、「その他」は59名（18.3%）であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、育てたい子ども数と実際の子どもの数の違いの理由（N= 183）は、その肯定率に着目すると、「子どもを育てるのにお金がかかる」が108名（59.0%）、「子どもを育てることが体力的につらい」が77名（42.1%）、「仕事との両立がむずかしい」が79名（43.2%）、「今の世の中や将来に対して不安である」が50名（27.3%）、「夫の協力・理解が少ない」が39名（21.3%）、「家が狭い」が40名（21.9%）、「親の協力・理解が少ない」が18名（9.8%）、「子どもがなかなか産まれない」が12名（6.6%）、「子どもを育てることが精神的負担である」が7名（3.8%）、「子どもを産み育てることが困難とはなっていない」が2名（1.1%）の順となっていた。なお、「その他」は34名（18.6%）であった。

育てたい子ども数と実際の子どもの数の違いの理由の中で1番目に障害となっていること（N=426）、「子どもを育てるのにお金がかかる」が153名（35.9%）、「子どもを育てることが体力的につらい」が84名（19.7%）、「仕事との両立がむずかしい」が65名（15.3%）、「子どもがなかなか産まれない」が25名（5.9%）、「今の世の中や将来に対して不安である」が22名（5.2%）、「夫の協力・理解が少ない」が22名（5.2%）、「子どもを育てることが精神的負担である」が11名（2.6%）、「家が狭い」が5名（1.2%）、「親の協力・理解が少ない」が5名（1.2%）、「子どもを産み育てることが困難とはなっていない」が1名（0.2%）の順となっていた。なお、「その他」は33名（7.7%）であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、育てたい子ども数と実際の子どもの数の違いの理由の中で1番目に障害となっていること（N= 236）、「子どもを育てるのにお金がかかる」が86名（36.4%）、「仕事との両立がむずかしい」が50名（21.2%）、「子どもを育てることが体力的につらい」が39名（16.5%）、「子どもがなかなか産まれない」が15名（6.4%）、「今の世の中や将来に対して不安である」が12名（5.1%）、「夫の協力・理解が少ない」が11名（4.7%）、「子どもを育てることが精神的負担である」が3名（1.3%）、「家が狭い」が1名（0.4%）、「子どもを産み育てることが困難とはなっていない」が1名（0.4%）、「親の協力・理解が少ない」が0名（0.0%）の順となっていた。なお、「その他」は18名（7.6%）であった。

育てたい子ども数と実際の子どもの数の違いの理由の中で2番目に障害となっていること（N= 369）、「子どもを育てるのにお金がかかる」が87名（23.6%）、「今の世の中や将来に対して不安である」が68名（18.4%）、「子どもを育てることが体力的につらい」が66名（17.9%）、「仕事との両立がむずかしい」が59名（16.0%）、「夫の協力・理解が少ない」が32名（8.7%）、「家が狭い」が29名（7.9%）、「子どもがなかなか産まれない」が7名（1.9%）、「親の協力・理解が少ない」が4名（1.1%）、「子どもを育てることが精神的負担である」が2名（0.5%）、「子どもを産み育てることが困難とはなっていない」が1名（0.3%）の順となっていた。なお、「その他」は14名（3.8%）であった。

保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、育てたい子ども数と実際の子どもの数の違いの理由の中で2番目に障害となっていること（N= 202）、「子どもを育てるのにお金がかかる」が41名（20.3%）、「仕事との両立がむずかしい」が40名（19.8%）、「子どもを育てることが体力的につらい」が35名（17.3%）、「今の世の中

や将来に対して不安である」が30名(14.9%)、「夫の協力・理解が少ない」が19名(9.4%)、「家が狭い」が17名(8.4%)、「子どもがなかなか産まれない」が3名(1.5%)、「親の協力・理解が少ない」が3名(1.5%)、「子どもを育てることが精神的負担である」が3名(1.5%)、「子どもを産み育てることが困難とはなっていない」が0名(0.0%)の順となっていた。なお、「その他」は11名(5.4%)であった。

家族形態(N=683)は、「父母+子」が472名(69.1%)、「父母+子+祖父母」107名(15.7%)、「母+子」59名(8.6%)、「母+子+祖父母」32名(4.7%)、「その他」13名(1.9%)であった。

保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、家族形態(N=347)は、「父母+子」が227名(65.4%)、「父母+子+祖父母」30名(8.6%)、「母+子」57名(16.4%)、「母+子+祖父母」25名(7.2%)、「その他」8名(2.4%)であった。

母親の実家との距離(N=680)は、「一緒に住んでいる」が58名(8.5%)、「歩いていける距離」が124名(18.2%)、「車や電車で1時間以内」が259名(38.1%)、「車や電車で1時間を超える道内」が170名(25.0%)、「北海道外」が49名(7.2%)、「その他」が20名(2.9%)であった。

父親の実家との距離(N=623)は、「一緒に住んでいる」が67名(10.8%)、「歩いていける距離」が101名(16.2%)、「車や電車で1時間以内」が197名(31.6%)、「車や電車で1時間を超える道内」が154名(24.7%)、「北海道外」が62名(10.0%)、「その他」が42名(6.7%)であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、父親の実家との距離(N=346)は、「一緒に住んでいる」が34名(9.8%)、「歩いていける距離」が52名(15.0%)、「車や電車で1時間以内」が122名(35.3%)、「車や電車で1時間を超える道内」が97名(28.0%)、「北海道外」が27名(7.8%)、「その他」が14名(4.0%)であった。

住居のタイプ(N=684)は、「一戸建て持ち家」が251名(36.7%)、「分譲マンション等の持ち家」が59名(8.6%)、「借家・アパート・マンション(賃貸)」が180名(26.3%)、「公営(道・市・町営・雇用促進)住宅」が113名(16.5%)、「社宅・官舎」が36名(5.3%)、「公社・公団住宅(賃貸)」が5名(0.7%)、「間借り」が1名(0.1%)、「親等の家に同居」が30名(4.4%)、「その他」が9名(1.3%)であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、住居のタイプ(N=347)は、「一戸建て持ち家」が77名(22.2%)、「分譲マンション等の持ち家」が54名(15.6%)、「借家・アパート・マンション(賃貸)」が142名(40.9%)、「公営(道・市・町営・雇用促進)住宅」が49名(14.1%)、「社宅・官舎」が12名(3.5%)、「公社・公団住宅(賃貸)」が3名(0.9%)、「間借り」が0名(0.0%)、「親等の家に同居」が7名(2.0%)、「その他」が3名(0.9%)であった。

居住年数(N=683)は、「1年未満」が75名(11.0%)、「1～3年未満」が185名(27.1%)、「3～5年未満」が150名(22.0%)、「5年以上」が273名(40.0%)であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、居住年数(N=346)は、「1年未満」が39名(11.3%)、「1～3年未満」が118名(34.1%)、「3～5年未満」が75名(21.7%)、「5年以上」が114名(32.9%)であった。

母親自身の状況に関しては、母親の年齢(N=683)は、「10代」が1名(0.1%)、「20～25歳未満」が27名(4.0%)、「25～30歳未満」が130名(19.0%)、「30～35歳未満」247名が(36.2%)、「35～40歳未満」が211名(30.9%)、「40歳以上」が67名(9.8%)であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、母親の年齢(N=344)は、「10代」が0名(0.0%)、「20～25歳未満」が24名(7.0%)、「25～30歳未満」が85名(24.7%)、「30～35歳未満」111名が(32.3%)、「35～40歳未満」が94名(27.3%)、「40歳以上」が30名(8.7%)であった。

母親の教育歴(N=682)は、「中学校卒業」が56名(8.2%)、「高等学校卒業」が308名(45.2%)、「専門学校卒業」が128名(18.8%)、「短期大学卒業」が130名(19.1%)、「四年制大学卒業」が53名(7.8%)、「大学院卒業」が7名(1.0%)であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、母親の教育歴(N=343)は、「中学校卒業」が28名(8.2%)、「高等学校卒業」が143名(41.7%)、「専門学校卒業」が71名(20.7%)、「短期大学卒業」が64名(18.7%)、「四年制大学卒業」が31名(9.0%)、「大学院卒業」が6名(1.7%)であった。

母親の結婚時の年齢(N=674)は、「10代」が36名(5.3%)、「20～25歳未満」が302名(44.8%)、「25～30歳未満」が274名(40.7%)、「30～35歳未満」が48名(7.1%)、「35～40歳未満」が14名(2.1%)であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、母親の結婚時の年齢(N=345)は、「10代」が23名(6.9%)、「20～25歳未満」が139名(41.6%)、「25～30歳未満」が139名(41.6%)、「30～35歳未満」が28名(8.4%)、「35～40歳未満」が5名(1.5%)であった。

自分の子どもができるまでに他の子どもを抱いたり遊んだりしたことの有無(N=682)は、「よくあった」が249名(36.5%)、「たまにあった」が313名(45.9%)、「まったくない」が120名(17.6%)であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、自分の子どもができるまでに他の子どもを抱いたり遊んだりしたことの有無(N=345)は、「よくあった」が111名(32.2%)、「たまにあった」が175名(50.7%)、「まったくない」が59名(17.1%)であった。

自分の子どもができるまでに他の子どもに食事を食べさせたり(ミルクを飲ませたり)、おむつを換えたりしたことの有無(N=681)は、「よくあった」が137名(20.1%)、「たまにあった」が230名(33.8%)、「まったくない」が314名(46.1%)であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、自分の子どもができるまでに他の子どもに食事を食べさせたり(ミルクを飲ませたり)、おむつを換えたりしたことの有無(N=343)は、「よくあった」が63名(18.4%)、「たまにあった」が111名(32.4%)、「まったくない」が169名(49.3%)であった。

母親の就労の有無(N=683)は、「有り」が495名(68.1%)、「無し」が218名(31.9%)であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、母親の就労の有無(N=344)は、「有り」が317名(92.2%)、「無し」が27名(7.8%)であった。

母親の職歴(N=679)は、「仕事をしていたが結婚がきっかけでやめた」が169名(24.9%)、「仕事をしていたが出産がきっかけでやめた」が126名(18.6%)、「仕事をしていたが結婚・出産以外の理由でやめた」が29名(4.3%)、「これまで仕事についていない」が6名(0.9%)、「現在も仕事を続けている(育児などの休暇後に仕事復帰し

た場合も含む)」が319名(47.0%)、「その他」が30名(4.4%)であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、母親の職歴(N=343)は、「仕事をしていたが結婚がきっかけでやめた」が31名(9.0%)、「仕事をしていたが出産がきっかけでやめた」が43名(12.5%)、「仕事をしていたが結婚・出産以外の理由でやめた」が8名(2.3%)、「これまで仕事についたことがない」が0名(0.0%)、「現在も仕事を続けている(育児などの休暇後に仕事復帰した場合も含む)」が247名(72.0%)、「その他」が14名(4.1%)であった。

社会的活動(N=688)は、「趣味・教養に関する習い事やサークル」が140名(20.3%)、「ボランティア活動」が19名(2.8%)、「PTAや地域活動」が156名(22.7%)、「育児・子育てサークル」が52名(7.6%)、「その他」が36名(5.2%)であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、社会的活動(N=348)は、「趣味・教養に関する習い事やサークル」が52名(14.9%)、「ボランティア活動」が10名(2.9%)、「PTAや地域活動」が52名(14.9%)、「育児・子育てサークル」が8名(2.3%)、「その他」が21名(6.0%)であった。

母親の平日に使用している自由時間(N=679)は、「まったくない」が39名(5.7%)、「30分」が102名(15.0%)、「1時間」が185名(27.2%)、「2時間」が184名(27.1%)、「3時間」が89名(13.1%)、「4時間」が42名(6.2%)、「5時間」が25名(3.7%)、「6時間以上」が13名(1.9%)となっていた。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、母親の平日に使用している自由時間(N=343)は、「まったくない」が24名(7.0%)、「30分」が65名(19.0%)、「1時間」が119名(34.7%)、「2時間」が85名(24.8%)、「3時間」が36名(10.5%)、「4時間」が7名(2.0%)、「5時間」が3名(0.9%)、「6時間以上」が4名(1.2%)となっていた。

母親の自由時間の活動(N=688)は、「テレビを見たりラジオを聞く」が479名(69.6%)、「新聞を読む」が290名(42.2%)、「雑誌や本を読む」が405名(58.9%)、「何もしないでのんびりしている」が218名(31.7%)、「友達などに電話をかけたたり手紙を書く」が208名(30.2%)、「近所・友達の家に出かける」が125名(18.2%)、「地域活動や社会活動をする」が19名(2.8%)、「買い物に出かける・散歩する」が197名(28.6%)、「資格・趣味のための学習をする」が66名(9.6%)、「習い事に出かける」が14名(2.0%)、「スポーツに出かける」が61名(8.9%)、「カラオケに行く」が17名(2.5%)、「パチンコに行く」が20名(2.9%)、「お酒を飲みに行く」が18名(2.6%)、「その他」が29名(4.2%)となっていた。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、母親の自由時間の活動(N=348)は、「テレビを見たりラジオを聞く」が240名(69.0%)、「新聞を読む」が136名(39.1%)、「雑誌や本を読む」が195名(56.0%)、「何もしないでのんびりしている」が101名(29.0%)、「友達などに電話をかけたたり手紙を書く」が119名(34.2%)、「近所・友達の家に出かける」が32名(9.2%)、「地域活動や社会活動をする」が8名(2.3%)、「買い物に出かける・散歩する」が73名(21.0%)、「資格・趣味のための学習をする」が46名(13.2%)、「習い事に出かける」が4名(1.1%)、「スポーツに出かける」が8名(2.3%)、「カラオケに行く」が14名(4.0%)、「パチンコに行く」が10名(2.9%)、「お酒を飲みに行く」が15名

(4.3%)、「その他」が22名(6.3%)となっていた。

母親の交友関係(N=688)は、「学生時代からの友人」が429名(62.4%)、「保育園・幼稚園を通しての友人」が350名(50.9%)、「保育園・幼稚園以外の子どもを通しての友人」が155名(22.5%)、「夫を通しての友人」が80名(11.6%)、「近所や地域の人たち」が188名(27.3%)、「仕事を通しての友人」が318名(46.2%)、「趣味を通しての友人」が67名(8.7%)、「自分の親やきょうだいや親戚」が411名(59.7%)、「夫の親やきょうだいや親戚」が184名(26.7%)、「その他」が18名(2.6%)、「家族以外にあまりつき合いはない」が16名(2.3%)であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、母親の交友関係(N=348)は、「学生時代からの友人」が223名(64.1%)、「保育園・幼稚園を通しての友人」が115名(33.0%)、「保育園・幼稚園以外の子どもを通しての友人」が64名(18.4%)、「夫を通しての友人」が33名(9.5%)、「近所や地域の人たち」が72名(20.7%)、「仕事を通しての友人」が210名(60.3%)、「趣味を通しての友人」が37名(10.6%)、「自分の親やきょうだいや親戚」が202名(58.0%)、「夫の親やきょうだいや親戚」が71名(20.4%)、「その他」が7名(2.0%)、「家族以外にあまりつき合いはない」が12名(3.4%)であった。

専業主婦に対する仕事に関する要望(N=216)は、「子どもを預かってくれるところがあれば今すぐにでもフルタイムで働きたい」が12名(5.6%)、「子どもを預かってくれるところがあれば今すぐにでもフルタイムで働きたい」が18名(8.3%)、「末子が3歳を過ぎた頃にフルタイムで働きたい」が3名(1.4%)、「末子が3歳を過ぎた頃にパートタイムで働きたい」が16名(7.4%)、「末子が小学校に入った頃にフルタイムで働きたい」が13名(6.0%)、「末子が小学校に入った頃にパートタイムで働きたい」が86名(39.8%)、「末子が中学校に入った頃にフルタイムで働きたい」が3名(1.4%)、「末子が中学校に入った頃にパートタイムで働きたい」が16名(7.4%)、「特に働こうとは思わない」が42名(19.4%)、「その他」が7名(3.2%)であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、専業主婦に対する仕事に関する要望(N=25)は、「子どもを預かってくれるところがあれば今すぐにでもフルタイムで働きたい」が6名(24.0%)、「子どもを預かってくれるところがあれば今すぐにでもフルタイムで働きたい」が4名(16.0%)、「末子が3歳を過ぎた頃にフルタイムで働きたい」が1名(4.0%)、「末子が3歳を過ぎた頃にパートタイムで働きたい」が3名(12.0%)、「末子が小学校に入った頃にフルタイムで働きたい」が0名(0.0%)、「末子が小学校に入った頃にパートタイムで働きたい」が3名(12.0%)、「末子が中学校に入った頃にフルタイムで働きたい」が0名(0.0%)、「末子が中学校に入った頃にパートタイムで働きたい」が1名(4.0%)、「特に働こうとは思わない」が3名(12.0%)、「その他」が4名(16.0%)であった。

母親の雇用形態(N=469)は、「民間企業の正社員・正職員(常勤雇用)」が97名(20.7%)、「公務・団体の正職員(常勤雇用)」が93名(19.8%)、「臨時雇用(季節雇用も含む)」が28名(6.0%)、「パートタイマー」が193名(41.2%)、「その他」が58名(12.4%)であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、母親の雇用形態(N=321)は、「民間企業の正社員・正職員(常勤雇用)」が94名(29.3%)、「公務・団体の正職員(常勤雇用)」が55名(17.1%)、「臨時雇用(季節雇用も含む)」

が10名（3.1%）、「パートタイマー」が135名（42.1%）、「その他」が27名（8.4%）であった。

母親の職業（N=472）は、「事務（一般事務など）」が99名（21.0%）、「店員（スーパー・商店の店員など）」が44名（9.4%）、「営業・セールス（保険・自動車などのセールス）」が31名（6.6%）、「農・林・水産業」が20名（4.2%）、「運輸・通信（職業運転手、荷役などの運輸従業者、通信従業者）」が6名（1.3%）、「製造・建設業（製造、加工、組立、建設、修理などの従事者）」が15名（3.2%）、「工員・作業員」が13名（2.8%）、「理容・美容などのサービス業」が12名（2.5%）、「飲食店などのサービス業」が51名（10.8%）、「専門職・技術的職業（医師、看護婦、保母、教員、弁護士、税理士など）」が135名（28.6%）、「管理的職業（会社などの役員、管理職など）」が4名（0.8%）、「その他」が42名（9.6%）であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、母親の職業（N=321）は、「事務（一般事務など）」が72名（22.4%）、「店員（スーパー・商店の店員など）」が18名（5.6%）、「営業・セールス（保険・自動車などのセールス）」が33名（10.3%）、「農・林・水産業」が3名（0.9%）、「運輸・通信（職業運転手、荷役などの運輸従業者、通信従業者）」が4名（1.2%）、「製造・建設業（製造、加工、組立、建設、修理などの従事者）」が14名（4.4%）、「工員・作業員」が3名（0.9%）、「理容・美容などのサービス業」が9名（2.8%）、「飲食店などのサービス業」が34名（10.6%）、「専門職・技術的職業（医師、看護婦、保母、教員、弁護士、税理士など）」が98名（30.5%）、「管理的職業（会社などの役員、管理職など）」が1名（0.3%）、「その他」が32名（10.0%）であった。

母親の出勤時間（N=471）は、「午前7時前」が10名（2.1%）、「午前7時～8時前」が87名（18.5%）、「午前8時～9時前」が211名（44.8%）、「午前9時～10時前」が59名（12.5%）、「午前10時～午後5時前」が26名（5.5%）、「午後5時以降」が13名（2.8%）、「決まっていない（交代勤務など）」が65名（13.8%）であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、母親の出勤時間（N=322）は、「午前7時前」が3名（0.9%）、「午前7時～8時前」が58名（18.0%）、「午前8時～9時前」が161名（50.0%）、「午前9時～10時前」が51名（15.8%）、「午前10時～午後5時前」が17名（5.3%）、「午後5時以降」が1名（0.3%）、「決まっていない（交代勤務など）」が31名（9.6%）であった。

母親の帰宅時間（N=467）は、「早朝」が3名（0.6%）、「午前10時ごろ」が1名（0.2%）、「昼ごろ」が36名（7.7%）、「午後6時ごろ」が284名（60.8%）、「午後8時ごろ」が27名（5.8%）、「午後10時ごろ」が7名（1.5%）、「午後11時よりも遅い時間」が10名（2.1%）、「決まっていない（交代勤務など）」が99名（21.2%）であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、母親の帰宅時間（N=467）は、「昼ごろ」が14名（4.4%）、「午後6時ごろ」が229名（71.8%）、「午後8時ごろ」が23名（7.2%）、「午後10時ごろ」が4名（1.3%）、「午後11時よりも遅い時間」が2名（0.6%）、「決まっていない（交代勤務など）」が47名（14.7%）であった。

母親の収入（月平均）（N=470）は、「2万円未満」が9名（1.9%）、「2～5万円

未満」が55名(11.7%)、「5～8万円未満」が106名(22.6%)、「8～15万円未満」が114名(24.3%)、「15～20万円未満」が65名(13.8%)、「20万以上」が106名(22.6%)、「わからない」が15名(3.2%)であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、母親の収入(月平均)(N=320)は、「2万円未満」が0名(0.0%)、「2～5万円未満」が20名(6.3%)、「5～8万円未満」が78名(24.4%)、「8～15万円未満」が86名(26.9%)、「15～20万円未満」が53名(16.6%)、「20万以上」が75名(23.4%)、「わからない」が8名(2.5%)であった。

母親の仕事についての悩みや不満(N=460)は、「勤め先が遠い」が22名(4.8%)、「勤務時間が長い」が21名(4.6%)、「夜勤や交代勤務がある」が20名(4.3%)、「残業が多い」が12名(2.6%)、「休みがとりにくい」が51名(11.1%)、「収入が少ない」が94名(20.4%)、「資格をいかせない」が5名(1.1%)、「雇用や身分が不安定」が27名(5.9%)、「昇給や昇進が遅い」が11名(2.4%)、「仕事の内容が難しい」が14名(3.0%)、「仕事の内容がつまらない」が4名(0.9%)、「仕事がつらい」が26名(5.7%)、「職場の人間関係がよくない」が20名(4.3%)、「その他」が12名(2.6%)、「特になし」が121名(26.3%)であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、母親の仕事についての悩みや不満(N=313)は、「勤め先が遠い」が17名(5.4%)、「勤務時間が長い」が15名(4.8%)、「夜勤や交代勤務がある」が8名(2.6%)、「残業が多い」が5名(1.6%)、「休みがとりにくい」が41名(13.1%)、「収入が少ない」が73名(23.3%)、「資格をいかせない」が2名(0.6%)、「雇用や身分が不安定」が22名(7.0%)、「昇給や昇進が遅い」が9名(2.9%)、「仕事の内容が難しい」が10名(3.2%)、「仕事の内容がつまらない」が4名(1.3%)、「仕事がつらい」が17名(5.4%)、「職場の人間関係がよくない」が10名(3.2%)、「その他」が6名(1.9%)、「特になし」が74名(23.6%)であった。

母親の就労観(N=465)は、「自分の能力を生かすため」が84名(18.1%)、「収入を得るため」が382名(82.2%)、「生きがい」が77名(16.6%)、「自分のプライドを満たしてくれる」が6名(1.3%)、「社会勉強」が27名(5.8%)、「自立のため」が55名(11.8%)、「他人がすすめるから」が1名(0.2%)、「技術を身につける」が13名(2.8%)、「他の人と接する機会をもつため」が101名(21.7%)、「その他」が31名(6.7%)であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、母親の就労観(N=317)は、「自分の能力を生かすため」が62名(19.6%)、「収入を得るため」が261名(82.3%)、「生きがい」が51名(16.1%)、「自分のプライドを満たしてくれる」が6名(1.9%)、「社会勉強」が16名(5.0%)、「自立のため」が58名(18.3%)、「他人がすすめるから」が0名(0.0%)、「技術を身につける」が8名(2.5%)、「他の人と接する機会をもつため」が68名(21.5%)、「その他」が18名(5.7%)であった。

母親の就労継続の意思(N=448)は、「いまの仕事を続けたい」が296名(66.1%)、「仕事の内容(職種)をかえたい」が49名(10.9%)、「勤め先をかえたい」が35名(7.8%)、「常勤の仕事にかわりたい」が18名(4.0%)、「パートの仕事にかわりたい」が8名(1.8%)、「仕事をやめたい」が11名(2.5%)、「その他」が31名(6.9%)であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、母親の就労

継続の意思 (N=314) は、「いまの仕事が続けたい」が197名 (62.7%)、「仕事の内容 (職種) をかえたい」が34名 (10.8%)、「勤め先をかえたい」が33名 (10.5%)、「常勤の仕事にかわりたい」が15名 (4.8%)、「パートの仕事にかわりたい」が8名 (2.5%)、「仕事をやめたい」が7名 (2.2%)、「その他」が20名 (6.4%)であった。

夫の家事・育児の参加状況に関しては、父親の家事・育児分担については、「休日や帰宅後に子どもの遊び相手をする (勉強をみる)」 (N=610) は、「いつもしている」が269名 (44.1%)、「ときどきしている」が242名 (39.7%)、「あまりしていない」が79名 (13.0%)、「まったくしていない」が20名 (3.3%)であった。「子育てに関することで夫婦で話し合う」 (N=609) は、「いつもしている」が184名 (30.2%)、「ときどきしている」が285名 (46.8%)、「あまりしていない」が102名 (16.7%)、「まったくしていない」が36名 (6.2%)であった。「あなたの悩みやグチを聞いてくれる」 (N=608) は、「いつもしている」が182名 (29.9%)、「ときどきしている」が250名 (41.1%)、「あまりしていない」が129名 (21.2%)、「まったくしていない」が47名 (7.7%)であった。「保育園・幼稚園に子どもを送って行く (迎えに行く)」 (N=607) は、「いつもしている」が107名 (17.6%)、「ときどきしている」が249名 (41.0%)、「あまりしていない」が134名 (22.1%)、「まったくしていない」が117名 (19.3%)であった。「あなたの外出中に子どもの世話をする」 (N=610) は、「いつもしている」が252名 (41.3%)、「ときどきしている」が237名 (38.9%)、「あまりしていない」が84名 (13.8%)、「まったくしていない」が37名 (6.1%)であった。「子どもと一緒に風呂に入る」 (N=610) は、「いつもしている」が263名 (43.1%)、「ときどきしている」が252名 (41.3%)、「あまりしていない」が63名 (10.3%)、「まったくしていない」が32名 (5.2%)であった。「子どもの着替えを手伝う (おむつを替える)」 (N=608) は、「いつもしている」が140名 (23.0%)、「ときどきしている」が266名 (43.8%)、「あまりしていない」が119名 (19.6%)、「まったくしていない」が83名 (13.7%)であった。「子どもと一緒に夕食をとる (食事を食べさせる)」 (N=611) は、「いつもしている」が224名 (36.7%)、「ときどきしている」が228名 (37.3%)、「あまりしていない」が123名 (20.1%)、「まったくしていない」が36名 (5.9%)であった。「子どもを寝かしつける」 (N=609) は、「いつもしている」が91名 (14.9%)、「ときどきしている」が218名 (35.8%)、「あまりしていない」が172名 (28.2%)、「まったくしていない」が128名 (21.0%)であった。「子どもが病気のときに仕事を休んで看病する」 (N=609) は、「いつもしている」が23名 (3.8%)、「ときどきしている」が92名 (15.1%)、「あまりしていない」が141名 (23.2%)、「まったくしていない」が353名 (58.0%)であった。「休日に家族を連れて出かける」 (N=612) は、「いつもしている」が275名 (44.9%)、「ときどきしている」が245名 (40.0%)、「あまりしていない」が71名 (11.6%)、「まったくしていない」が21名 (3.4%)であった。「食品の買い物と一緒に行く」 (N=611) は、「いつもしている」が208名 (34.0%)、「ときどきしている」が272名 (44.5%)、「あまりしていない」が75名 (12.3%)、「まったくしていない」が56名 (9.2%)であった。「食事をつくる」 (N=611) は、「いつもしている」が39名 (6.4%)、「ときどきしている」が177名 (29.0%)、「あまりしていない」が164名 (26.8%)、「まったくしていない」が231名 (37.8%)であった。「食器を洗う」 (N=611) は、「いつもし

ている」が51名(8.3%)、「ときどきしている」が169名(27.7%)、「あまりしていない」が154名(25.2%)、「まったくしていない」が237名(38.8%)であった。「お風呂の掃除や準備をする」(N=610)は、「いつもしている」が73名(12.0%)、「ときどきしている」が207名(33.9%)、「あまりしていない」が136名(22.3%)、「まったくしていない」が194名(31.8%)であった。「ゴミ捨てる」(N=611)は、「いつもしている」が145名(23.7%)、「ときどきしている」が148名(24.2%)、「あまりしていない」が119名(19.5%)、「まったくしていない」が199名(32.6%)であった。「部屋の掃除をする」(N=611)は、「いつもしている」が33名(5.4%)、「ときどきしている」が165名(27.0%)、「あまりしていない」が172名(28.2%)、「まったくしていない」が241名(39.4%)であった。「洗濯をする(洗濯を干すまたはたたむ)」(N=610)は、「いつもしている」が47名(7.7%)、「ときどきしている」が102名(16.7%)、「あまりしていない」が116名(19.0%)、「まったくしていない」が345名(56.6%)であった。「アイロンがけをする」(N=610)は、「いつもしている」が19名(3.1%)、「ときどきしている」が34名(5.6%)、「あまりしていない」が53名(8.7%)、「まったくしていない」が504名(82.6%)であった。「保育園・幼稚園のお便りを書く」(N=607)は、「いつもしている」が10名(1.6%)、「ときどきしている」が50名(8.2%)、「あまりしていない」が63名(10.4%)、「まったくしていない」が484名(79.7%)であった。「保育園・幼稚園の行事に参加する」(N=603)は、「いつもしている」が173名(28.5%)、「ときどきしている」が267名(44.3%)、「あまりしていない」が106名(17.4%)、「まったくしていない」が62名(10.2%)であった。「子どもの疑問や話しかけにきちんと答える」(N=611)は、「いつもしている」が346名(56.6%)、「ときどきしている」が189名(30.9%)、「あまりしていない」が66名(10.8%)、「まったくしていない」が10名(1.6%)であった。「子どもがいけないことをしたときには叱る」(N=611)は、「いつもしている」が434名(71.0%)、「ときどきしている」が143名(23.4%)、「あまりしていない」が23名(3.8%)、「まったくしていない」が11名(1.8%)であった。「写真をとるなどの子どもの成長記録をつける」(N=611)は、「いつもしている」が136名(22.3%)、「ときどきしている」が215名(35.2%)、「あまりしていない」が147名(24.1%)、「まったくしていない」が113名(18.5%)であった。「子どもを病院へ連れていく」(N=610)は、「いつもしている」が7名(1.2%)、「ときどきしている」が215名(35.2%)、「あまりしていない」が158名(25.9%)、「まったくしていない」が161名(26.4%)であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、夫の家事・育児の参加状況に関しては、父親の家事・育児分担については、「休日や帰宅後に子どもの遊び相手をする(勉強をみる)」(N=281)は、「いつもしている」が128名(45.6%)、「ときどきしている」が108名(38.4%)、「あまりしていない」が35名(12.5%)、「まったくしていない」が10名(3.6%)であった。「子育てに関することで夫婦で話し合う」(N=280)は、「いつもしている」が91名(32.5%)、「ときどきしている」が117名(41.8%)、「あまりしていない」が48名(17.1%)、「まったくしていない」が24名(8.6%)であった。「あなたの悩みやグチを聞いてくれる」(N=279)は、「いつもしている」が89名(31.9%)、「ときどきしている」が107名(38.4%)、「あまりしていない」が54名(19.4%)、「まったくしていない」が29名

(10.4%)であった。「保育園・幼稚園に子どもを送って行く(迎えに行く)」(N=278)は、「いつもしている」が72名(25.9%)、「ときどきしている」が99名(35.6%)、「あまりしていない」が41名(14.7%)、「まったくしていない」が66名(23.7%)であった。「あなたの外出中に子どもの世話をする」(N=279)は、「いつもしている」が105名(37.6%)、「ときどきしている」が113名(40.5%)、「あまりしていない」が40名(14.3%)、「まったくしていない」が21名(7.5%)であった。「子どもと一緒にお風呂に入る」(N=280)は、「いつもしている」が119名(42.5%)、「ときどきしている」が108名(38.6%)、「あまりしていない」が35名(12.5%)、「まったくしていない」が18名(6.4%)であった。「子どもの着替えを手伝う(おむつを替える)」(N=282)は、「いつもしている」が75名(26.6%)、「ときどきしている」が125名(44.3%)、「あまりしていない」が42名(14.9%)、「まったくしていない」が40名(14.2%)であった。「子どもと一緒に夕食をとる(食事を食べさせる)」(N=281)は、「いつもしている」が91名(32.4%)、「ときどきしている」が119名(42.3%)、「あまりしていない」が53名(18.9%)、「まったくしていない」が18名(6.4%)であった。「子どもを寝かしつける」(N=280)は、「いつもしている」が45名(16.1%)、「ときどきしている」が94名(33.6%)、「あまりしていない」が77名(27.5%)、「まったくしていない」が64名(22.9%)であった。「子どもが病気のとときに仕事を休んで看病する」(N=279)は、「いつもしている」が15名(5.4%)、「ときどきしている」が49名(17.6%)、「あまりしていない」が63名(22.6%)、「まったくしていない」が152名(54.5%)であった。「休日に家族を連れて出かける」(N=282)は、「いつもしている」が119名(42.2%)、「ときどきしている」が116名(41.1%)、「あまりしていない」が32名(11.3%)、「まったくしていない」が15名(5.3%)であった。「食品の買い物と一緒に行く」(N=282)は、「いつもしている」が113名(40.1%)、「ときどきしている」が112名(39.7%)、「あまりしていない」が31名(11.0%)、「まったくしていない」が26名(9.2%)であった。「食事をつくる」(N=282)は、「いつもしている」が26名(9.2%)、「ときどきしている」が84名(29.8%)、「あまりしていない」が78名(27.7%)、「まったくしていない」が94名(33.3%)であった。「食器を洗う」(N=281)は、「いつもしている」が34名(12.1%)、「ときどきしている」が82名(29.2%)、「あまりしていない」が71名(25.3%)、「まったくしていない」が94名(33.5%)であった。「お風呂の掃除や準備をする」(N=279)は、「いつもしている」が46名(16.5%)、「ときどきしている」が86名(30.8%)、「あまりしていない」が64名(22.9%)、「まったくしていない」が83名(29.7%)であった。「ゴミ捨てをする」(N=282)は、「いつもしている」が113名(40.1%)、「ときどきしている」が64名(22.7%)、「あまりしていない」が49名(17.4%)、「まったくしていない」が56名(19.9%)であった。「部屋の掃除をする」(N=282)は、「いつもしている」が19名(6.7%)、「ときどきしている」が91名(32.3%)、「あまりしていない」が71名(25.2%)、「まったくしていない」が101名(35.8%)であった。「洗濯をする(洗濯を干すまたはたたむ)」(N=282)は、「いつもしている」が27名(9.6%)、「ときどきしている」が62名(22.0%)、「あまりしていない」が52名(18.4%)、「まったくしていない」が141名(50.0%)であった。「アイロンがけをする」(N=281)は、「いつもしている」が11名(3.9%)、「ときどきしている」が17

名（6.0%）、「あまりしていない」が21名（7.5%）、「まったくしていない」が232名（82.6%）であった。「保育園・幼稚園のお便りを書く」（N=278）は、「いつもしている」が8名（2.9%）、「ときどきしている」が30名（10.8%）、「あまりしていない」が24名（8.6%）、「まったくしていない」が216名（77.7%）であった。「保育園・幼稚園の行事に参加する」（N=280）は、「いつもしている」が80名（28.6%）、「ときどきしている」が94名（33.6%）、「あまりしていない」が64名（22.9%）、「まったくしていない」が42名（15.0%）であった。「子どもの疑問や話しかけにきちんと答える」（N=282）は、「いつもしている」が150名（53.2%）、「ときどきしている」が103名（36.5%）、「あまりしていない」が24名（8.5%）、「まったくしていない」が5名（1.8%）であった。「子どもがいけないことをしたときには叱る」（N=279）は、「いつもしている」が184名（65.9%）、「ときどきしている」が73名（26.2%）、「あまりしていない」が14名（5.0%）、「まったくしていない」が8名（2.9%）であった。「写真をとるなどの子どもの成長記録をつける」（N=282）は、「いつもしている」が64名（22.7%）、「ときどきしている」が98名（34.8%）、「あまりしていない」が75名（26.6%）、「まったくしていない」が45名（16.0%）であった。「子どもを病院へ連れていく」（N=282）は、「いつもしている」が47名（16.7%）、「ときどきしている」が104名（36.9%）、「あまりしていない」が72名（25.5%）、「まったくしていない」が59名（20.9%）であった。

夫に対する評価については、「夫にもっと家事を協力してほしい」（N=599）は、「そう思う」が280名（46.7%）、「そうは思わない」が319名（53.3%）であった。「夫にもっと育児に参加してほしい」（N=598）は、「そう思う」が338名（56.5%）、「そうは思わない」が260名（43.5%）であった。「夫は子どもにきびしすぎる」（N=604）は、「そう思う」が81名（13.4%）、「そうは思わない」が523名（86.6%）であった。「夫は子どもにあますぎる」（N=602）は、「そう思う」が152名（25.2%）、「そうは思わない」が450名（74.8%）であった。「夫に子どもともっと遊んでほしい」（N=599）は、「そう思う」が334名（55.8%）、「そうは思わない」が265名（44.2%）であった。「夫は子どもにかますぎる」（N=601）は、「そう思う」が39名（6.5%）、「そうは思わない」が562名（93.5%）であった。「夫は子どもに無関心すぎる」（N=604）は、「そう思う」が63名（10.4%）、「そうは思わない」が541名（89.6%）であった。「子どものことについてもっと相談にのってほしい」（N=598）は、「そう思う」が184名（30.8%）、「そうは思わない」が414名（69.2%）であった。「夫は頼りにならない」（N=600）は、「そう思う」が84名（14.0%）、「そうは思わない」が516名（86.0%）であった。「夫には何を話してもムダだ」（N=602）は、「そう思う」が64名（10.6%）、「そうは思わない」が538名（89.4%）であった。「夫は仕事第一主義である」（N=602）は、「そう思う」が174名（28.9%）、「そうは思わない」が428名（71.1%）であった。「夫は私を人生のパートナーとして大切に思っている」（N=594）は、「そう思う」が430名（72.4%）、「そうは思わない」が164名（27.6%）であった。「夫は家族よりも趣味に没頭している」（N=602）は、「そう思う」が102名（16.9%）、「そうは思わない」が500名（83.1%）であった。「夫は家族よりも友人関係を大切にする」（N=600）は、「そう思う」が58名（9.7%）、「そうは思わない」が542名（90.3%）であった。「夫は何かと実家に頼りすぎる」

(N= 603) は、「そう思う」が 72名 (11.9%)、「そうは思わない」が531名 (88.1%)であった。「男は仕事、女は家庭」という考え方をもっている」(N= 604) は、「そう思う」が193名 (32.0%)、「そうは思わない」が411名 (68.0%)であった。「夫は子育ては夫婦の責任だと思っている」(N=598) は、「そう思う」が425名 (71.1%)、「そうは思わない」が173名 (28.9%)であった。「夫は疲れている」(N=599) は、「そう思う」が394名 (65.8%)、「そうは思わない」が205名 (34.2%)であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、夫に対する評価については、「夫にもっと家事を協力してほしい」(N=275) は、「そう思う」が147名 (53.5%)、「そうは思わない」が128名 (46.5%)であった。「夫にもっと育児に参加してほしい」(N=275) は、「そう思う」が154名 (56.0%)、「そうは思わない」が121名 (44.0%)であった。「夫は子どもにきびしすぎる」(N=277) は、「そう思う」が 34名 (12.3%)、「そうは思わない」が243名 (87.7%)であった。「夫は子どもにあますぎる」(N=278) は、「そう思う」が 63名 (22.7%)、「そうは思わない」が215名 (77.3%)であった。「夫に子どもともっと遊んでほしい」(N=275) は、「そう思う」が153名 (55.6%)、「そうは思わない」が122名 (44.4%)であった。「夫は子どもにかまひすぎる」(N=277) は、「そう思う」が 13名 (4.7%)、「そうは思わない」が264名 (95.3%)であった。「夫は子どもに無関心すぎる」(N=277) は、「そう思う」が 23名 (8.3%)、「そうは思わない」が254名 (91.7%)であった。「子どものことについてもっと相談にのってほしい」(N=274) は、「そう思う」が82名 (23.9%)、「そうは思わない」が192名 (70.1%)であった。「夫は頼りにならない」(N=276) は、「そう思う」が 49名 (17.8%)、「そうは思わない」が227名 (82.2%)であった。「夫には何を話してもムダだ」(N=275) は、「そう思う」が 37名 (13.5%)、「そうは思わない」が238名 (86.5%)であった。「夫は仕事第一主義である」(N=277) は、「そう思う」が83名 (30.0%)、「そうは思わない」が194名 (70.0%)であった。「夫は私を人生のパートナーとして大切に思っている」(N= 274) は、「そう思う」が185名 (67.5%)、「そうは思わない」が89名 (32.5%)であった。「夫は家族よりも趣味に没頭している」(N=276) は、「そう思う」が47名 (17.0%)、「そうは思わない」が 229名 (83.0%)であった。「夫は家族よりも友人関係を大切にする」(N=276) は、「そう思う」が27名 (9.8%)、「そうは思わない」が249名 (90.2%)であった。「夫は何かと実家に頼りすぎる」(N=278) は、「そう思う」が 33名 (11.9%)、「そうは思わない」が 245名 (88.1%)であった。「男は仕事、女は家庭」という考え方をもっている」(N= 278) は、「そう思う」が68名 (24.5%)、「そうは思わない」が210名 (75.5%)であった。「夫は子育ては夫婦の責任だと思っている」(N=276) は、「そう思う」が190名 (68.8%)、「そうは思わない」が 86名 (31.2%)であった。「夫は疲れている」(N=277) は、「そう思う」が188名 (67.9%)、「そうは思わない」が89名 (32.1%)であった。

父親の年齢 (N=606) は、「25歳未満」が14名 (2.3%)、「25～30歳未満」が62名 (10.2%)、「30～35歳未満」が169名 (27.9%)、「35～40歳未満」が220名 (36.3%)、「40歳以上」が 141名 (23.3%)であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、父親の年齢 (N=280) は、「25歳未満」が12名 (4.3%)、「25～30歳未満」が47名 (16.8%)、「30～35歳未満」が81名 (28.9%)、「35～40歳未満」が77